阿蘇中岳1985年1月～12月における地震活動と微動エネルギーの変化*

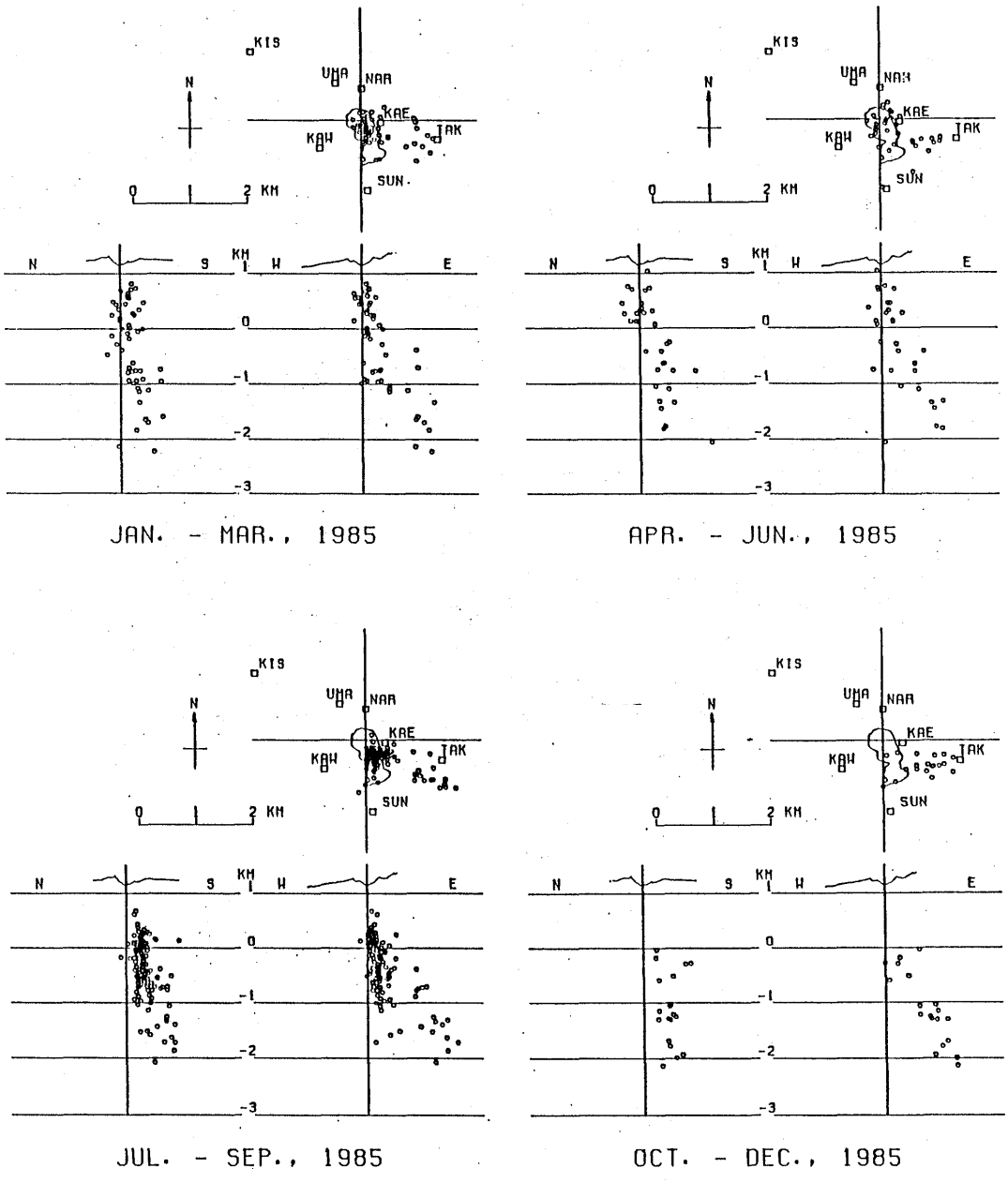
京都大学理学部火山研究施設

阿蘇中岳第一火口では1985年前半には第一火口底内に次々と851火孔，852火孔，853火孔が開口するなどの活発な活動が続いた。後半には火口底に再び湯だまりが出現し火山活動は休止状態が続いている。

1985年一年間の中岳周辺の地震活動（震源分布）及び火山性微動エネルギー放出量の変化（1日単位）を第1図及び第2図に示してある。

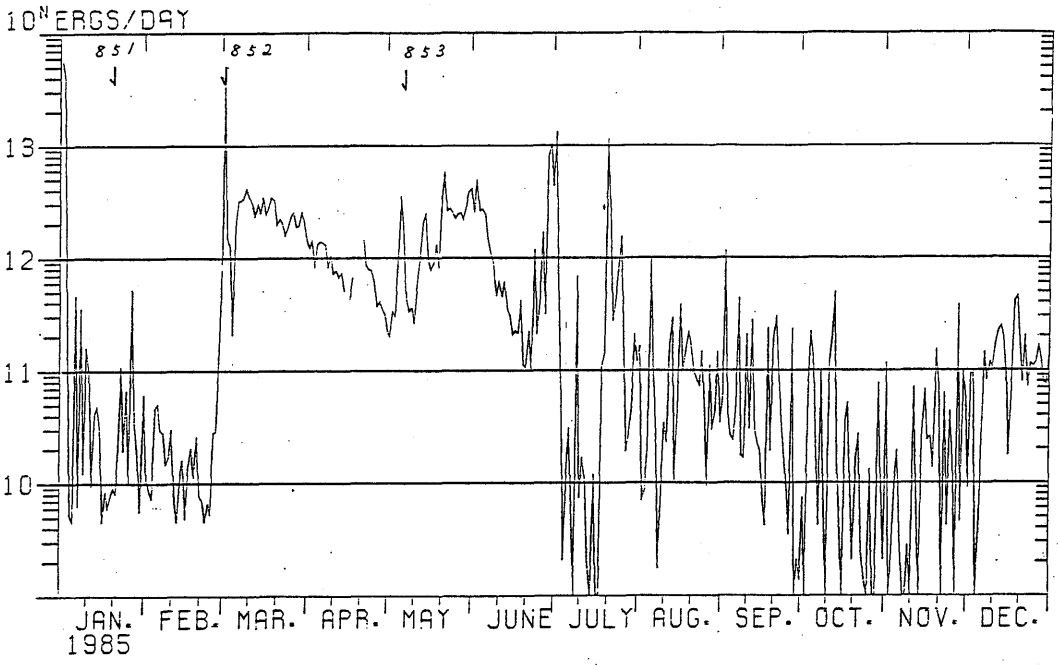
火口周辺の地震活動については，1985年前半と後半と比較して特に目立った変化は見られない。また，火山性微動エネルギーの放出量についても，1979年6月～12月の活動期の放出エネルギーは10^{14} ergを示していたが，今回は約2桁小さい10^{12} erg～10^{11} ergの範囲に止っていた。

* Received March 1, 1986



第1図　阿蘇中岳周辺の火山性地震の震源分布（1985年）

Fig.1　Distribution of foci of volcanic earthquakes at Nakadake Aso volcano (1985)



第2図　1985年阿蘇火山火山性微動エネルギー放出量変化（日単位）

Fig. 2　Variation of energy (erg/day) of volcanic microtremor at Aso volcano (851, 852 and 853 are the names of new pit crater)